

## つながる地域と雪舟

私たちの住む日本は海に囲まれた島国ですが、その歴史のうえでは中国や朝鮮と密接に交流してきました。漢字や宗教を共有するこの東アジア文化圏では、美術もまた各地域それぞれに展開しながら、互いに影響を与えています。

朝鮮半島では独自の様式の仏画が描かれてきましたが、それらは中世から近世にかけて日本に多数渡来しています。鎌倉時代には、仏教の修行のために中国へ渡航した日本人僧が当地の絵画を持ち帰り、文化をつなぐ役割も果たしました。室町時代には、足利将軍家が宋・元時代の中国美術を「唐物」として愛蔵したことで、美意識の規範が形成されます。

このような日本と東アジアのつながりの中、備中赤浜（現岡山県総社市）に生まれた雪舟等楊（1420-1506?）は、実際に明時代の中国に渡り、同時代の絵に接したことで、その画業を大きく飛躍させます。ここでは、この雪舟とともに、14～16世紀の国際交流についてみていきたいと思います。

作者	作品名	制作年	材質・技法	所蔵
不詳	ようりゅうかんのんず 楊柳観音図	高麗後期（14世紀前期）	絹本着色	個人蔵
不詳	じぞうじゅうおうず 地藏十王図	高麗後期（14世紀前期）	絹本着色	宝島寺蔵
不詳	さんぞうぼさつず 三蔵菩薩図	万暦16（1588）年	麻布着色	宝島寺蔵
不詳	あみだによらいず 阿弥陀如来図	朝鮮時代（16世紀）	麻布着色	個人蔵
伝 月壺 でんげつこ	びやくえかんのんず 白衣観音図	元時代（14世紀）	絹本墨画	本館蔵
不詳	びやくえかんのんず 白衣観音図	室町時代（15世紀）	絹本墨画	清瀧寺蔵
不詳	にょいりんかんのんぞう 如意輪観音像	鎌倉時代（14世紀）	絹本着色	岡山県立博物館蔵
不詳	にょいりんかんのんず 如意輪観音図	南北朝時代（14世紀）	絹本着色	正光院蔵
伝 夏珪 でん かけい	さんすいず（えんそうけい） 山水図（円窓形）	元時代（14世紀）	絹本墨画	本館蔵
伝 馬遠 でん ばえん	さいしず 採芝図	元時代（14世紀）	絹本墨画淡彩	本館蔵
伝 馬遠 でん ばえん	こうしたんばいず 高士探梅図	元時代（14世紀）	絹本墨画淡彩	本館蔵
足利 義持 あしかがよしもち	かんざんず 寒山図	室町時代（15世紀）	紙本墨画	本館蔵
玉腕 梵芳 ぎよくえん ほんほう	らんせきず 蘭石図	室町時代（15世紀前半）	紙本墨画	個人蔵
不詳	とどうてんじんず（いしやうとくがんざん） 渡唐天神図（惟肖得巖賛）	室町時代（15世紀）	紙本着色	本館蔵
雪舟 等楊 せつしゅうとうよう	とどうてんじんず 渡唐天神図	文亀元（1501）年	絹本着色	本館蔵
不詳	ぎちやうほうしのず 魏徴奉使之図	明時代（15世紀）	絹本墨画淡彩	本館蔵
不詳	こうしず 高士図	明時代（15世紀）	絹本墨画淡彩	本館蔵
拙宗 等揚 せつしゅうとうよう	しゅうせんしゃかず 出山釈迦図	室町時代（15世紀）	紙本墨画	本館蔵
拙宗 等揚 せつしゅうとうよう	せつけいさんすいず 雪景山水図	室町時代（15世紀）	紙本墨画淡彩	本館蔵
鉄舟 徳濟 てつしゅうとくさい	ろがんず 芦雁図	南北朝時代（14世紀）	絹本墨画	本館蔵
秋月 等観 しゅうげつとうかん	はくろず 白鷺図	室町時代（15-16世紀）	紙本墨画	本館蔵

## 親子・家族のつながり

「将来の夢は？」—子どもたちは「サッカー選手」「パティシエ」といった好きなものから、成長の過程でだんだんと現実味のある選択をしていきますが、身近な家族の職業や育った環境が影響を及ぼすことは往々にしてあることです。

父・浦上玉堂（1745-1820）の脱藩に随い、10代で故郷を離れることになった2人の息子—奔放で独創的な玉堂とは対照的に温和で洗練された作品で人気作家となった春琴、11歳でひとり音楽方として会津藩に仕え、70余年を会津で過ごした秋琴。父子の人生はそれぞれですが「文人」として生きる姿勢に共通点があります。

また千年の歴史を誇る窯業地・備前においても、家族のつながりは子どもの将来に大きな影響を与えたものと思います。幼い頃から身近に見てきた父や兄を越える作品を創りたい、そんな想いが備前焼の発展を支えてきたのではないのでしょうか。備前の伝統を担いつつ、時代に応じて発揮された各々の個性をお楽しみください。

作者	作品名	制作年	材質・技法	所蔵
浦上 春琴	浦上玉堂像	文化10（1813）年	紙本墨画淡彩	本館蔵
不詳	玉堂琴士之碑拓本	制作年不詳（19-20世紀）	紙本	本館蔵
不詳	春琴居士碑拓本	制作年不詳（19-20世紀）	紙本	本館蔵
浦上 安	和歌短冊・秋琴添書	江戸時代後期（18-19世紀）	紙本墨書	本館蔵
浦上 玉堂	玉堂製七絃琴	天明6（1786）年	木造漆塗	正宗文庫蔵
浦上 玉堂	『玉堂琴譜』	寛政3（1791）年	版本	正宗文庫蔵
浦上 玉堂、浦上 春琴、				
浦上 秋琴 他	玉堂琴囊	寛政10（1798）年	麻布墨書・墨画淡彩他	本館蔵
浦上 玉堂	『玉堂琴士集』前集	寛政6（1794）年	版本	正宗文庫蔵
浦上 玉堂	『玉堂琴士集』後集	寛政9（1797）年	版本	正宗文庫蔵
浦上 玉堂	二字「草亭」	天明元（1781）年	紙本墨書	個人蔵
浦上 玉堂	二字「心静」	江戸時代後期（18世紀）	紙本墨書	本館蔵
浦上 玉堂	山水図（扇面）	寛政元（1789）年	紙本墨画淡彩	個人蔵
浦上 玉堂	千山列峯図他諸家寄書	寛政3（1791）年頃	綸子地墨画着色	個人蔵
浦上 玉堂	仙溪訪友図	江戸時代後期（19世紀）	紙本墨画淡彩	本館蔵
浦上 玉堂	山澗読易図	江戸時代後期（19世紀）	紙本墨画淡彩	本館蔵
浦上 玉堂	山高水長図	江戸時代後期（19世紀）	紙本墨画淡彩	本館蔵
浦上 玉堂	秋山晚晴図	江戸時代後期（19世紀）	綸子地墨画淡彩	個人蔵
浦上 玉堂	秋江雨晴図	江戸時代（19世紀）	紙本墨画	本館蔵
浦上 玉堂	平遠奇峯図	江戸時代後期（19世紀）	紙本墨画	本館蔵
浦上 玉堂	春山染雨図	江戸時代後期（19世紀）	絹本墨画淡彩	本館蔵
浦上 玉堂	疎松曲水図	江戸時代後期（19世紀）	紙本墨画淡彩	本館蔵
浦上 玉堂	琴写澗泉図	文化12（1815）年	紙本墨画淡彩	本館蔵
浦上 春琴	花鳥図	文化5（1808）年	絹本着色	個人蔵
浦上 春琴	江上漁楽図	文化6（1809）年	紙本墨画淡彩	個人蔵

うらかみ しゅんきん 浦上 春琴	さんすいがじょう 山水画帖	文化6 (1809) 年	絹本淡彩	本館蔵
うらかみ しゅんきん 浦上 春琴	かきずかん 花卉図巻	文化13 (1816) 年	紙本着色	本館蔵
うらかみ しゅんきん 浦上 春琴	ようろうかんばくず 養老観瀑図	文化14 (1817) 年	紙本墨画淡彩	個人蔵
うらかみ しゅんきん 浦上 春琴	とうろうよくせつず ちつかためがき 凍雲欲雪図 (竹下為書)	文化14 (1817) 年	絹本墨画淡彩	本館蔵
うらかみ しゅんきん 浦上 春琴	めいかしやうちゅうず 名華鳥蟲図	文政4 (1821) 年	絹本着色	本館蔵
うらかみ しゅんきん 浦上 春琴	もせせんほうとうほくえんひついでさんすいず 模施溥倣董北苑筆意山水図	江戸時代後期 (19世紀)	絹本墨画	個人蔵
うらかみ しゅんきん、かさ 浦上 春琴、霞山	ばらきくず しょかよりあいがき 薔薇菊図 (諸家寄合書)	文政11 (1828) 年	紙本墨画・墨書	個人蔵
らいさんよう、おきなかいおく さん ／頼山陽、貫名海屋 賛	かぞかいきやくず 果蔬海客図	江戸時代後期 (19世紀)	紙本墨画淡彩	個人蔵
うらかみ しゅんきん、らいさんようさん 浦上 春琴／頼山陽 賛	さんすいず しゅんきんじょう 山水図 (春琴帖)	天保2 (1831) 年	絹本墨画・絹本淡彩	本館蔵
うらかみ しゅんきん 浦上 春琴	たかおこうようがさんかん 高雄紅葉画賛巻	天保4 (1833) 年	絹本墨画淡彩	個人蔵
うらかみ しゅんきん 浦上 春琴	せんざんせいぎょうず 僊山清暁図	天保15 (1844) 年	絹本着色	本館蔵
うらかみ しゅんきん 浦上 秋琴	さんすいず 山水図	寛政9 (1797) 年	紙本淡彩	個人蔵
うらかみ しゅんきん 浦上 秋琴	しゅうけいさんすいず 秋景山水図	安政2 (1855) 年	紙本墨画淡彩	個人蔵
うらかみ しゅんきん 浦上 秋琴	さんすいず さんほたししょうゆう 山水図 (散歩多勝遊)	明治3 (1870) 年	紙本墨画淡彩	本館蔵
うらかみ しゅんきん 浦上 秋琴	しゅうけいさんすいず 秋景山水図	明治4 (1871) 年	紙本墨画淡彩	個人蔵
不詳	ぎよくどうしよよういんしょう 玉堂所用印章	江戸時代後期 (19世紀)	印材	本館蔵
不詳	しゅんきんしよよういんしょう 春琴所用印章	江戸時代後期 (19世紀)	印材	本館蔵
うらかみ ぎよくどうえつけ 浦上 玉堂 絵付	うらかみ ぎよくどうえつけ ぎよくどうしよよう さげじゅう 浦上玉堂絵付 玉堂所用 提重	江戸時代後期 (19世紀)	朱漆塗金泥彩	本館蔵
ふじわら けい 藤原 啓	びぜんおおとくりがたつぽ 備前大德利形壺	昭和40年代後半 (1970年代前半)	備前土	本館蔵
ふじわら ゆう 藤原 雄	びぜんみずさし 備前水指	昭和40年代 (1965-1974年)	備前土	本館蔵
ふじわら けん 藤原 建	びぜんようへんみつきみずさし 備前窯変耳付水指	昭和時代 (20世紀)	備前土	本館蔵
やまもと とうしゅう 山本 陶秀	びぜんひだすきひろくちかき 備前緋襷広口花器	平成5 (1993) 年	備前土	本館蔵
やまもと ゆういち 山本 雄一	びぜんひだすきひろくちかき 備前緋襷広口花器	平成12 (2000) 年	備前土	個人蔵
かねしげ とうよう 金重 陶陽	びぜんひだすきかき 備前緋襷花器	昭和25 (1950) 年	備前土	個人蔵
かねしげ とうよう 金重 陶陽	びぜんちょうかくだいばち 備前長角台鉢	昭和26 (1951) 年	備前土	個人蔵
かねしげ ぞん 金重 素山	ひだすきもつこうてばち 火襷木瓜手鉢	昭和時代 (20世紀)	備前土	個人蔵
かねしげ みちあき 金重 道明	いんべかびん 伊部花瓶 (トーマスポール)	昭和時代 (20世紀)	備前土	個人蔵
かねしげ こうすけ 金重 晃介	びぜんかき せい 備前花器「聖衣」	平成6 (1994) 年	備前土	本館蔵
かねし げゆうほう 金重 有邦	いんべひだすきみずがめ 伊部火襷水瓶	平成29 (2017) 年	備前土	個人蔵
いせざき みつる 伊勢崎 満	びぜんおおざら 備前大皿	昭和時代 (20世紀)	備前土	本館蔵
いせざき じゅん 伊勢崎 淳	びぜんかくはないけ 備前角花生	平成20 (2008) 年	備前土	本館蔵
かねしげ とうよう 金重 陶陽	じく がん 軸「こひのほり」 (画賛)	昭和41 (1966) 年	紙本墨書	個人蔵
かねしげ とうよう 金重 陶陽	びぜんひだすきちようし 備前緋襷銚子	昭和12-13 (1937-38) 年	備前土	個人蔵

かねしげとうよう 金重 陶陽	びぜんわりざんしょむこうづけ 備前割山椒向付	昭和時代 (20世紀)	備前土	個人蔵
いせさきようざん 伊勢崎 陽山	どうじむしとりおきもの 童子虫取置物	大正～昭和時代 (20世紀)	備前土	個人蔵
こやまふじお 小山 富士夫	とくり2しゅうぐいのみ10しゅう 徳利 2種 酒呑 10種	昭和時代 (20世紀)	陶土	本館蔵

## 岡山と民藝 — 暮しが仕事 仕事が暮し

柳宗悦 (1889-1961) は、はじめ西洋近代美術に関心を寄せていましたが、朝鮮古陶磁研究家・浅川伯教との出会いから朝鮮の工芸品を知り、次第に民衆の暮らしの中から生まれる美に魅了されていきました。大正14 (1925) 年に「民藝」という言葉を創出し、河井寛次郎や濱田庄司、芹沢銈介らとともに、機械生産によって消えゆく手仕事の保存育成を唱え、作品の収集や出版、普及活動に力を注ぎました。

倉敷の実業家で大原美術館を開いた大原孫三郎 (1880-1943) は、柳の活動を支援し、作品の収集や東京・日本民藝館の開設を援助するとともに全国で2番目となる民藝館を倉敷に建てました。これにより民藝運動を推進した河井や濱田、芹沢たちもたびたび倉敷を訪れ、岡山に縁を得ました。ここでは、使い手の心を豊かにする美、人々の暮しを見つめ、制作する喜びが感じられる彼らの作品をお楽しみください。

作者	作品名	制作年	材質・技法	所蔵
せりざわ けいすけ 芹沢 銈介	<small>もん</small> ようこそ文のれん	昭和50 (1975) 年	綿	個人蔵
せりざわ けいすけ 芹沢 銈介	<small>おがわかみすきむらもんかたえぞめきもの</small> 小川紙すき村文型絵染着物	昭和18 (1943) 年	縮緬	本館蔵
せりざわ けいすけ 芹沢 銈介	<small>かたえぞめ あかばのおび</small> 型絵染 赤葉之帯	昭和時代 (18世紀)	綿	個人蔵
せりざわ けいすけ 芹沢 銈介	<small>もん</small> いろは文	昭和33 (1958) 年	綿	個人蔵
せりざわ けいすけ 芹沢 銈介	<small>ましこひがえり</small> 益子日帰り	昭和時代 (19世紀)	綿	個人蔵
バーナード・リーチ	<small>つば</small> 壺	昭和41 (1966) 年	陶土	個人蔵
バーナード・リーチ	<small>えんけいざら</small> 円形皿	昭和時代 (20世紀)	陶土	個人蔵
バーナード・リーチ	<small>きかがくもんつば</small> 幾何学紋壺	昭和時代 (20世紀)	陶土	個人蔵
バーナード・リーチ	<small>つばのず</small> 壺の図	昭和時代 (20世紀)	紙本墨画	個人蔵
はまだしょうじ 濱田 庄司	<small>こくゆうさびななれがきおおぼち</small> 黒釉錆流描大鉢	昭和時代 (20世紀)	陶土	個人蔵
はまだしょうじ 濱田 庄司	<small>あめゆうえがわりかくとりざら</small> 飴釉絵替角取皿	昭和時代 (20世紀)	陶土	個人蔵
はまだしょうじ 濱田 庄司	<small>はけめまるもんゆのみ</small> 刷毛目丸紋湯呑	昭和時代 (20世紀)	陶土	個人蔵
はまだしょうじ 濱田 庄司	<small>てつきかくびん</small> 鉄砂花瓶	昭和時代 (20世紀)	陶土	個人蔵
はまだしょうじ 濱田 庄司	<small>かけわけゆうほうこ</small> 掛分釉方壺	昭和時代 (20世紀)	陶土	個人蔵
はまだしょうじ 濱田 庄司	<small>かきゆうかくがたこうろ</small> 柿釉角型香爐	昭和43 (1968) 年	陶土	個人蔵
はまだしょうじ 濱田 庄司	<small>あかえめんとりはなけ</small> 赤絵面取花生	昭和時代 (20世紀)	陶土	個人蔵
かわい かんじろう 河井 寛次郎	<small>がくとうたく</small> 額 陶拓	昭和時代 (20世紀)	墨・紙	個人蔵
かわい かんじろう 河井 寛次郎	<small>がくとうたく</small> 額 陶拓	昭和時代 (20世紀)	墨・紙	個人蔵
かわい かんじろう 河井 寛次郎	<small>がくとうたく</small> 額 陶拓	昭和時代 (20世紀)	墨・紙	個人蔵
かわい かんじろう 河井 寛次郎	<small>ねりあげへんこ</small> 練上扁壺	昭和時代 (20世紀)	陶土	個人蔵
かわい かんじろう 河井 寛次郎	<small>てつぐすりながぼち</small> 鐵葉長鉢	昭和25 (1950年頃) 年頃	陶土	個人蔵
かわい かんじろう 河井 寛次郎	<small>ごすまるもんしほうつば</small> 呉洲丸紋四方壺	昭和時代 (20世紀)	陶土	個人蔵
かわい かんじろう 河井 寛次郎	<small>ごすどろはけめへんこ</small> 呉洲泥刷毛目扁壺	昭和30 (1955) 年	陶土	個人蔵

かわい かんじろう 河井 寛次郎	しんしゃひしはなばこ 辰砂菱花筥	昭和時代 (20世紀)	陶土	個人蔵
かわい かんじろう 河井 寛次郎	はなへんこ 花扁壺	昭和28 (1953) 年頃	陶土	個人蔵
かわい かんじろう 河井 寛次郎	つつがきはなてもんざら 筒描花手紋皿	昭和時代 (20世紀)	陶土	個人蔵
かわい かんじろう 河井 寛次郎	さんしよくへんこ 三色扁壺 (共箱)	昭和37 (1962) 年	陶土	個人蔵
かわい かんじろう 河井 寛次郎	とうちよう にんぎよう 陶彫 (人形)	昭和時代 (20世紀)	陶土	個人蔵
ゆのき さみろう 柚木 沙弥郎	とうもろこし かぜ	平成24 (2012) 年	綿	本館蔵
とみもと けんきち 富本 憲吉	いろえきんざんさいおびどめ 色絵金銀彩帯留	昭和時代 (20世紀)	陶土	個人蔵
とみもと けんきち 富本 憲吉	ぞめつけ・はなじこうちやわん 染付・花字紅茶碗	昭和時代 (20世紀)	陶土	個人蔵
とみもと けんきち 富本 憲吉	いろえきんざんさいはしおき 色絵金彩箸置	昭和時代 (20世紀)	陶土	個人蔵
あかぎ あきと 赤木 明登	めしわん・しるわん 飯椀・汁椀	平成6 (1994) 年	輪島紙衣塗 素材：樺、国産漆、輪島 地粉、綿布、和紙	本館蔵
むなかた しこう 棟方 志功	いかななことにのさく 遺憾なことにの柵	制作年不詳	木版・紙	個人蔵
むなかた しこう 棟方 志功	やまとが せいぶつ くだもの・つば 倭画 静物 (果物・壺)	制作年不詳	紙本着色	個人蔵
むなかた しこう 棟方 志功	きよみしようにちげつさくふうしんさつけん 潔眞頌 日月柵 風信冊 乾	昭和12-40 (1937-65) 年	墨書・葉書	個人蔵
むなかた しこう 棟方 志功	きよみしようにちげつさくふうしんさつこん 潔眞頌 日月柵 風信冊 坤	昭和12-40 (1937-65) 年	墨書・葉書	個人蔵
むなかた しこう 棟方 志功	やまとが いかるず 倭画 斑鳩図	昭和20 (1945) 年	紙本着色	個人蔵
むなかた しこう 棟方 志功	やまとが りぎよず 倭画 鯉魚図	制作年不詳	紙本着色	個人蔵
むなかた しこう 棟方 志功	やまとが やくこんたいくうさすず 倭画 躍鯉大空指図	制作年不詳	紙本着色	個人蔵
むなかた しこう 棟方 志功	あかふどうみようおうず 赤不動明王図	昭和22 (1947) 年	紙本着色	個人蔵
むなかた しこう 棟方 志功	あおふどうみようおうず 青不動明王図	昭和27 (1952) 年	紙本着色	個人蔵
むなかた しこう 棟方 志功	ふどうみようおうず 不動明王図	昭和15-25 (1940-50) 年	紙本着色	個人蔵
むなかた しこう 棟方 志功	きひしょう よしまつへきが 季妃頌 (芳松壁画)	制作年不詳	紙本着色	個人蔵

## 油彩画家 地域とのつながり

「岡山ゆかりの画家」とは言うものの、岡山ではない場所で絵画を勉強した、あるいは絵画を制作した画家が多くいます。留学する画家、海外で評価された画家、後進を指導する画家など、経歴は様々です。

この章では、14人の画家を通して、欧州で学ぶ、米国に移る、東京に住む、関西に住む、という4つの点から代表作をご紹介します。

松岡寿、原田直次郎、原撫松は、東京美術学校 (現東京藝術大学) 西洋画科が新設される前に渡欧しました。犬飼恭平と国吉康雄は移民として渡米し、そこで画家として評価されました。渡辺文三郎と平木政次は東京で活動しますが、松原三五郎、鹿子木孟郎、寺松国太郎、赤松麟作のように、関西で活動した画家も見られます。

作者	作品名	制作年	材質・技法	所蔵
まつおか ひさし 松岡 寿	ひえとろ・みかのふくさうのおとこ ピエトロ・ミカの服装の男	明治14 (1881) 年	油彩・カンバス	本館蔵
まつおか ひさし 松岡 寿	がいせんもん 凱旋門	明治15 (1882) 年頃	油彩・カンバス	本館蔵
まつおか ひさし 松岡 寿	おとこのかお 男の顔	明治14-20 (1881-87) 年	木炭・紙	本館蔵
まつおか ひさし 松岡 寿	しょうじょらたい 少女裸体	明治14-20 (1881-87) 年	木炭・紙	本館蔵

はらだ なおじろう 原田 直次郎	ふうけい 風景	明治19 (1886) 年	油彩・カンバス	本館蔵
はら ぶしよう 原 撫松	じがぞう 自画像	明治38 (1905) 年	油彩・カンバス	本館蔵
はら ぶしよう 原 撫松	ろうじんぞう 老人像	明治39 (1906) 年	油彩・カンバス	本館蔵
はら ぶしよう 原 撫松	よこむきのらふ 横向きの裸婦	明治40 (1907) 年	油彩・カンバス	個人蔵
なかやまたかし 中山 巍	こくいのおんな 黒衣の女	大正15 (1926) 年頃	油彩・カンバス	本館蔵
なかやまたかし 中山 巍	がしつのおとこ 画室の男	大正15 (1926) 年頃	油彩・カンバス	本館蔵
さかた かずお 坂田 一男	きゅびすむてきじんぶつぞう キュビズム的人物像	大正14 (1925) 年	油彩・カンバス	本館蔵
さかた かずお 坂田 一男	すわるおんな 坐る女Ⅲ	大正15 (1926) 年	油彩・カンバス	本館蔵
さかた かずお 坂田 一男	でっさん・すわるおんな デッサン・坐る女	パリ時代 (1921-33) 年	木炭、鉛筆、パステル・紙	個人蔵
さかた かずお 坂田 一男	でっさん・すわるおんな デッサン・坐る女	大正14 (1925) 年	木炭・紙	個人蔵
いぬかい きょうへい 犬飼 恭平	しゅうさく よったおとこ 習作 (酔った男)	大正10 (1921) 年	油彩・カンバス	個人蔵
くによし やすお 国吉 康雄	ろばのいるふうけい ロバのいる風景	昭和3 (1928) 年	油彩・カンバス	本館蔵
くによし やすお 国吉 康雄	よあけがくる 夜明けが来る	昭和19 (1944) 年	油彩・カンバス	本館蔵
くによし やすお 国吉 康雄	まつりはおわった 祭りはおわった	昭和22 (1947) 年	油彩・カンバス	本館蔵
わたなべ ぶんざぶろう 渡辺 文三郎	まつしま 松島	制作年不詳 (19-20世紀)	水彩・紙	本館蔵
ひらき まさつぐ 平木 政次	ざんせつ こうしゅうよしだ 残雪 甲州吉田	明治時代 (20世紀初頭)	水彩・紙	倉敷市立美術館蔵
まつおか ひさし 松岡 寿	ちちのぞう (まつおかりん) 父の像 (松岡隣)	明治22 (1889) 年	油彩・カンバス	本館蔵
はらだ なおじろう 原田 直次郎	すさのおのみことやまたのおろちたいじがこう 素戔嗚尊八岐大蛇退治画稿	明治28 (1895) 年頃	油彩・カンバス	本館蔵
みつたに くにしろう 満谷 国四郎	せとないかいふうけい 瀬戸内海風景	大正6 (1917) 年	油彩・カンバス	本館蔵
まつばら さんごろう 松原 三五郎	もも 桃	明治時代 (19-20世紀)	油彩・カンバス	本館蔵
あかまつりんさく 赤松 麟作	みずどりのいるふうけい 水鳥のいる風景	明治36 (1903) 年	油彩・カンバス	本館蔵
あかまつりんさく 赤松 麟作	みほのまつばら 三保の松原 (A)	昭和13 (1938) 年	油彩・カンバス	本館蔵
てらまつ くにたろう 寺松 国太郎	おとめさんげのざ 乙女散華之図	大正4 (1915) 年	油彩・カンバス	(一財) 倉敷山田コレクション
かのこぎたけしろう 鹿子木 孟郎	かいがん 海岸	昭和12 (1937) 年	油彩・カンバス	本館蔵

## 動植物へのまなざし

私たちの周りには厳しくも豊かな自然が広がり、多くの動植物が共存しています。私たちは美しい花々を愛で、小さな虫たちにも好奇心をかき立てられ、移り変わる季節、繰り返される生と死に命の尊さや世界は「無常」であるということを教えられてきました。ここでは、1期は春爛漫、咲き誇る花々を、2期は夏、水に戯れる魚たちを中心に、作品がつなぐ命の姿をご覧ください。

洋画家や日本画家は動植物の生き活きとした姿を丹念に素描し、構図をまとめ彩色し作品に仕上げます。近年評価の高い正阿弥勝義の《超絶技巧》と称される緻密で真に迫る鶴や鶏をはじめ、備前焼や木工、漆芸など工芸家たちが素材を吟味し、技法を凝らした中に時にユーモアを交えて楽しく表した動植物—それぞれの素材の違い、表現の違いを見比べてみてください。

また、ここでは当館が取り組む《作品からつながる》鑑賞支援ツールについてもご紹介します。

作者	作品名	制作年	材質・技法	所蔵
あかまつりんさく 赤松 麟作	ひよこ	昭和3 (1928) 年	油彩・カンバス	本館蔵

あかまつりんざく 赤松 麟作	にほんけい 日本鶏	昭和12 (1937) 年	油彩・カンバス	本館蔵
あかまつりんざく 赤松 麟作	おに 鬼ゆり	制作年不詳 (20世紀)	油彩・カンバス	本館蔵
あかまつりんざく 赤松 麟作	ばら 薔薇	昭和13 (1938) 年	油彩・カンバス	本館蔵
こばやし きいちろう 小林 喜一郎	ダリア	昭和4 (1929) 年	油彩・カンバス	本館蔵
はらぶしよう 原 撫松	すみれ	明治24 (1891) 年	水彩、鉛筆・紙	本館蔵
はらぶしよう 原 撫松	もっこう 木香バラ	明治27 (1894) 年	水彩、鉛筆・紙	本館蔵
はらぶしよう 原 撫松	よんほんのむぎ 4本の麦	明治27 (1894) 年	水彩・紙	本館蔵
はらぶしよう 原 撫松	ぼたん 牡丹	明治25-27 (1892-94) 年	水彩・紙	本館蔵
はらぶしよう 原 撫松	びやくれん 白蓮	制作年不詳 (20世紀)	水彩・紙	本館蔵
いなばしゅんせい 稲葉 春生	おいつばきくろねこ 老椿黒猫	昭和5 (1930) 年	絹本着色	本館蔵
いなばしゅんせい 稲葉 春生	やちよう 野鳥 (スケッチ)	昭和3 (1928) 年	鉛筆、淡彩・紙	本館蔵
いなばしゅんせい 稲葉 春生	うずら (スケッチ)	昭和17 (1942) 年	墨、淡彩・紙	本館蔵
いなばしゅんせい 稲葉 春生	やえざくら 八重桜 (スケッチ)	昭和4 (1929) 年	鉛筆、水彩・紙	本館蔵
いなばしゅんせい 稲葉 春生	たけのこ 筍 (2) (スケッチ)	昭和17 (1942) 年	墨、水彩・紙	本館蔵
いなばしゅんせい 稲葉 春生	しゃくやく 芍薬 (3) (スケッチ)	昭和2 (1927) 年	鉛筆、淡彩・紙	本館蔵
いなばしゅんせい 稲葉 春生	ためともゆり 為朝百合 (スケッチ)	昭和2 (1927) 年	鉛筆、淡彩・紙	本館蔵
かなたににおこ 金谷 朱尾子	はるといいうなのしんわ 春という名の神話	平成6 (1994) 年	紙本着色	本館蔵
はやしこうかん 林 皓幹	くじゃくず 孔雀図	大正9 (1920) 年頃	絹本着色	本館蔵
たかはししゅうか 高橋 秋華	ぼたん・あきくさず <small>ぼたんず</small> 牡丹・秋草図 (のうち牡丹図)	昭和10 (1935) 年	絹本着色	個人蔵
しょうあみかつよし 正阿弥 勝義	ほおちのず <small>つるこうろ</small> 穂落之図 (鶴香炉)	明治時代 (19世紀)	銀地	本館蔵
しょうあみかつよし 正阿弥 勝義	こうごうかめ 香盒 (亀)	明治時代 (19世紀)	銀	本館蔵
しょうあみかつよし 正阿弥 勝義	にわとりこうろ 鶏香炉	明治20年代 (1887-1896年)	銀、合金	岡山県立博物館蔵
しょうあみかつよし 正阿弥 勝義	にわとりひなおきもの 鶏雛置物	明治33 (1900) 年	銀、他	個人蔵
しょうあみかつよし 正阿弥 勝義	ひなすつりかびん 雛巢釣花瓶	明治32 (1899) 年	銀、合金	岡山県立博物館蔵
なんばじんさい 難波 仁斎	かき <small>ばいりんもんひらなつめ</small> 描きんま梅林文平棗	昭和40年代後半 (1970年-1975年頃)	木胎、描菫醬	本館蔵
なんばじんさい 難波 仁斎	まきえおうかもんふぶき 蒔絵桜花文雪吹	昭和時代 (20世紀)	木胎、蒔絵	本館蔵
なんばじんさい 難波 仁斎	かききんまそうもんしほうもりき 描菫醬草文四方盛器	昭和36 (1961) 年	木胎、描菫醬	個人蔵
なんばじんさい 難波 仁斎	かききんままるほん かんえん 描菫醬丸盆「閑苑」	昭和34 (1959) 年	木胎、描菫醬	本館蔵
やまぐちまつた 山口 松太	ついきんうめもんまきえなかつぎ 堆錦梅文蒔絵中次	平成時代 (21世紀)	堆錦、蒔絵	本館蔵
やまぐちまつた 山口 松太	ついきん 堆錦レンゲザ	平成12 (2000) 年	堆錦	本館蔵
やまぐちまつた 山口 松太	ついきんえんめいそうまきえひらなつめ 堆錦延齡草蒔絵平棗	平成18 (2006) 年	堆錦	本館蔵
こまつばらけんじ 小松原 賢次	なかつぎよざくら 中次「夜桜」	平成5年 (1993) 年	平文、螺鈿	本館蔵
こまつばらけんじ 小松原 賢次	ひらなつめ 平棗「みかん」	平成13 (2001) 年	螺鈿、卵殻、平文	本館蔵
こまつばらけんじ 小松原 賢次	しちこぬりまきえばん <small>くさ</small> 七子塗り蒔絵盤「草むしろ」	平成24 (2012) 年	変わり塗り	本館蔵

こまつばらけんじ 小松原 賢次	はなもんふばこ キンマ華文文箱	昭和57 (1982) 年	蒔醬	本館蔵
こまつばらけんじ 小松原 賢次	ひょうもんまきえばこながるる 平文蒔絵箱「流るゝ」	平成19 (2007) 年	平文、螺鈿	本館蔵
こまつばらけんじ 小松原 賢次	らんかくまきえしきしばこりんか 卵殻蒔絵色紙箱「輪花」	平成10 (1998) 年	卵殻、螺鈿	本館蔵
こびぜん 古備前	しろびぜんにわとりこうろ 白備前鶏香炉	江戸時代 (19世紀)	備前土	個人蔵
まどの さかく 真殿 左鶴	あおびぜんつこうろ 青備前鶴香炉	昭和10年代 (1935-1944年頃)	備前土	本館蔵
かねしげとうよう 金重 陶陽	びぜんうめにうぐいすじょうちん 備前梅に鶯帖鎮	大正末期 (1920年代半ば)	備前土	個人蔵
かねしげとうよう 金重 陶陽	びぜんさんえんふたおき 備前三猿蓋置	昭和7 (1932) 年頃	備前土	個人蔵
かねしげとうよう 金重 陶陽	びぜんぞうすいでき 備前象水滴	昭和7 (1932) 年頃	備前土	個人蔵
かねしげとうよう 金重 陶陽	びぜんひだすきにわとりこうごう 備前緋襷鶏香合	昭和7 (1932) 年	備前土	個人蔵
かねしげとうよう 金重 陶陽	さいしきびぜんいのししこうごう 彩色備前猪香合	昭和9 (1934) 年	備前土	個人蔵
かねしげとうよう 金重 陶陽	びぜんとらこうごう 備前寅香合	昭和12 (1937) 年	備前土	個人蔵
かねしげとうよう 金重 陶陽	びぜんうしこうごう 備前牛香合	昭和23 (1948) 年	備前土	個人蔵
かねしげとうよう 金重 陶陽	びぜんひつじこうごう 備前羊香合	昭和時代 (20世紀)	備前土	個人蔵
かねしげとうよう 金重 陶陽	いんべかま ますふたおき 伊部窯 升蓋置	昭和時代 (20世紀)	備前土	個人蔵
みむらとうけい 三村 陶景	さいしきびぜんいさみこまこうろ 彩色備前勇駒香炉	大正時代 (1912-26年)	備前土	本館蔵

## ときめくファッション — 和の装い

ここでは「和の装い」をテーマとし、林皓幹や竹久夢二の情緒あふれる美人画や、赤松麟作や寺松国太郎らの洋画など近代の作品を展示します。着物に帯と、和装の構成要素は同じように思えるかもしれませんが、その時々により、柄の合わせ方や着こなしは異なります。秋には紅葉、冬には浜千鳥などと文様が季節を表現するのも和装の醍醐味のひとつでしょう。

また和装姿に華を添えるかんざしや櫛などの装飾品もあわせて展示します。かんざしひとつとっても、素材や形の違いがありとても奥深いものです。そして何を身につけるかも大事ですが、どのように装うのかも非常に重要なことです。最後に身支度にいそしむ人々を表した作品を、洋画・日本画・工芸の各分野から出品します。

続く2期の「洋の装い」もぜひご覧いただき、全期を通して描かれた「装い」の数々をお楽しみ下さい。

作者	作品名	制作年	材質・技法	所蔵
はやしこうかん 林 皓幹	かいまみ させき 垣間見 (左隻)	大正11 (1922) 年	絹本着色	本館蔵
たけひさゆめじ 竹久 夢二	いなりやま 稲荷山	明治末～大正初期	紙本着色	夢二郷土美術館蔵
たけひさゆめじ 竹久 夢二	やま・やま・やま ふじん 山・山・山 (『婦人グラフ』四巻二号挿絵)	昭和2 (1927) 年	木版	夢二郷土美術館蔵
たけひさゆめじ 竹久 夢二	なつすがた 夏姿	大正中期	絹本着色	夢二郷土美術館蔵
たけひさゆめじ 竹久 夢二	ゆかたじ 浴衣地	制作年不詳	木綿	夢二郷土美術館蔵
たけひさゆめじ 竹久 夢二	ふじんぐらふ さんかんきゅうごうひょうし あきのうみ 『婦人グラフ』三巻九号表紙「秋の海」	大正15 (1926) 年	雑誌	夢二郷土美術館蔵
はやしこうかん 林 皓幹	かくれみのびじんず 隠蓑 (美人図)	大正時代 (20世紀)	紙本着色	本館蔵
こじまとらじろう 児島 虎次郎	すいせんをもつしょうじょ 水仙を持つ少女	大正15 (1926) 年	油彩・カンバス	本館蔵
あかまつりんさく 赤松 麟作	まいこ 舞妓	昭和2 (1927) 年	油彩・カンバス	本館蔵
あかまつりんさく 赤松 麟作	まいこ 舞妓	昭和3 (1928) 年	油彩・カンバス	本館蔵



てらまつくにたるう 寺松 国太郎	ついおく 追憶	昭和4 (1929) 年	油彩・カンバス	本館蔵
こばやかわとくしろう 小早川 篤四郎	ふじんぞう 婦人像	昭和30 (1955) 年	油彩・カンバス	本館蔵
みつたにくにしろう 満谷 国四郎	あさのみじまい 朝の身仕舞	昭和6 (1931) 年	油彩・カンバス	本館蔵
おおばやしちまき 大林 千萬樹	こうしよう 紅粧	大正11 (1922) 年頃	絹本着色	本館蔵
おおばやしその 大林 蘇乃	べに	昭和時代 (20世紀)	木心・陶塑、紙貼り	本館蔵
ひらたごうよう 平田 郷陽	したくししょう・ふじむすめ 支度 (師匠・藤娘)	昭和17 (1942) 年	木彫・着せ込み	本館蔵
不詳	そうしんぐいっしき 装身具一式	20世紀初頭	不詳	岡山県立博物館蔵

## 岡山の風景

北を中国山地、南を瀬戸内海に挟まれた岡山県は、変化に富んだ自然と地域性豊かな景観を有しています。四季折々の表情を見せる自然や、地域に根ざした人々の暮らしは、多くの作家に恰好のモチーフを提供してきました。この章では、岡山に題材を求めた近代から現代までの作品を通して、作家ごとに様々な解釈された岡山をご紹介します。

暮らしの中で何気なく目にする風景を作家はどのように見つめ、切り取っているのでしょうか。懐かしい風景やなじみ深い場所も、いつもとは異なる一面を見せてくれるでしょう。また現在では失われてしまった風景や人々の暮らしも、作品の中では生き生きと当時の様子を伝えてくれます。岡山の内包する豊かな美の世界を存分にお楽しみください。

作者	作品名	制作年	材質・技法	所蔵
ふちがみきよつこう 淵上 旭江	ごきしちどうず 五畿七道図	寛政8 (1796) 年	絹本着色	本館蔵
とみおかてっさい 富岡 鉄斎	ごうけいしんけいず 豪渓真景図	明治40 (1907) 年	紙本淡彩	本館蔵
もりやまともき 森山 知己	だいござくら 醍醐桜	平成10 (1998) 年	紙本着色	山陽新聞社蔵
もりたになんじんし 森谷 南人子	かさおかぼくしゅう 笠岡麦秋	大正7-8 (1918-1919) 年	絹本着色	笠岡市立竹喬美術館蔵
しおでひでお 塩出 英雄	かんてい 閑庭	昭和41 (1966) 年	紙本着色	本館蔵
さたけとく 佐竹 徳	じゅ オリーブ樹	制作年不詳 (20世紀)	油彩・カンバス	本館蔵
なかつせただひこ 中津瀬 忠彦	あさひがわ 旭川	昭和37 (1962) 年	油彩・カンバス	本館蔵
よしとみあさじろう 吉富 朝次郎	ふうけい 風景	明治44 (1911) 年	油彩・カンバス	個人蔵
よしだしげる 吉田 苞	かまば 窯場	大正6 (1917) 年	油彩・カンバス	本館蔵
こばやしきいちろう 小林 喜一郎	かぞく 家族コンポジション	昭和10 (1935) 年頃	油彩・カンバス	本館蔵
たかはらまさたか 高原 政孝	みかどへんでんしよふうけい 三門変電所風景	昭和9 (1934) 年	油彩・カンバス	本館蔵
かわはらしゅうへい 河原 修平	びじゅつかんまますじふうけい 美術館前筋風景	昭和36 (1961) 年	油彩・カンバス	(一財) 倉敷山田コレクション
こじまとらじろう 児島 虎次郎	うじょう 烏城	昭和2 (1927) 年	油彩・カンバス	高梁市成羽美術館蔵
みどりかわよういち 緑川 洋一	いま うじょう しの 今はなき烏城を偲ぶ	昭和18-20 (1943-45) 年	ゼラチン・シルバー・プリント	緑川洋一記念室蔵

## 時間・時代

過去から現在、そして未来へとつながり、あるいは時空を超えたその向こうへと広がる「時」という概念はとても幅広く、環境や心情などその時々状況によって様々な認識で捉えられています。

下道基行による《Dusk / Dawn Thira / Siem Reap》は、遠く離れた2つの対照的な風景がつながることで「終わり」と「始まり」が同時に起きていることを示唆しており、太田三郎が長年にわたって発表し続けているオリジナルの切手作品には、「時間」と「場所」の関連性がテーマとして込められています。

このコーナーでは、ごく僅かな時間の痕跡や、長時間あるいは長い月日に及ぶことの積み重ね、またはリアルタイムの記録や同時性など、「時」にまつわる多様な表現をご堪能ください。

作者	作品名	制作年	材質・技法	所蔵
したみちもとゆき 下道 基行	Dusk/Dawn Thira/Siem Reap	平成23 (2011) 年	ラムダプリント 自作シアノタイプ	本館蔵
なかはら こうだい 中原 浩大	まほうのつえがれごをうかせる。 魔法の杖がLEGOを浮かせる。	平成6 (1994) 年	印画紙 自作シアノタイプ	個人蔵
なかはら こうだい 中原 浩大	あおざり 青桐	平成6 (1994) 年	印画紙 自作シアノタイプ	個人蔵
なかはら こうだい 中原 浩大	せんだん 梅檀	平成6 (1994) 年	印画紙	個人蔵
きたがわたろう 北川 太郎	じくう 時空ピラミッド 生きることはさまで	平成28 (2016) 年	御影石	個人蔵
すずき 鈴木 サトシ	びょうかぶり しょうざう 一ハンセン病 隔離の肖像	平成10-16 (1998-2004) 年	プリント	個人蔵
おわた さぶろう 太田 三郎	せんさいこん POST WAR 66 戦災痕	平成23 (2011) 年	レーザープリント・ 紙	本館蔵

## シュール、幻想 — リアルを超えて

古より画家たちは、目の前に広がる実際の世界をありのままに再現しようとしただけでなく、目には見えないものや現実ではない世界をも描こうとしました。岡山ゆかりの洋画家たちもまた、シュールレアリスム絵画運動などに影響を受けながら、時として、記憶や夢の中の情景、あるいは空想の世界を描いてきました。

パリ留学からの帰路ギリシャに立ち寄り、古代彫像や遺跡をデッサンした中山巍は、古のギリシャの栄華を思い偲んで、緑の背景に彫像や壺が浮遊するようなシュールな世界を描いています。また有元利夫と瀬本容子は、二人とも、どこか中世ヨーロッパやルネサンスの雰囲気を感じさせる神秘的な人物を登場させ、現実ではないどこか別次元の幻想的な世界を描いています。

ここでは、目には見えない記憶や幻想など、超現実や非現実の世界を主題にした作品をご紹介します。

作者	作品名	制作年	材質・技法	所蔵
なかやまたかし 中山 巍	ついで ギリシャの追想	昭和12 (1937) 年	油彩・カンバス	本館蔵
みはしたけし 三橋 健	わか ひ かんしょうてき 若き日の感傷的パノラマ	昭和12-13 (1937-38) 年	油彩・カンバス	本館蔵
おの えま 小野 絵麻	きたんていはつこうかんず 奇譚剃髪高官図 (ロッキード事件簿)	昭和55 (1980) 年	油彩、アクリル絵の具・カンバス	本館蔵
おの ふみ 小野 二三	とり 鳥	昭和34 (1959) 年	油彩・カンバス	本館蔵
ありもととしお 有元 利夫	かいわ 会話	昭和55 (1980) 年	混合技法・カンバス	本館蔵
せもとようこ 瀬本 容子	しゅくさい 祝祭	平成9 (1997) 年	テンペラ・板	本館蔵

## 抽象 一線と色

多くの人が幼い頃、地面に指でらくがきをしたり、クレヨンでカラフルな絵を描いて遊んだりした経験があるのではないのでしょうか。「絵」を描くステップとして、人は線で描くことからはじめ、そして色と出会います。

このコーナーでは、絵画を構成する上で重要な「線」と「色」に焦点をあて、フランス留学後にキュビズムから抽象絵画の研究へと進んだ坂田一男（1889-1959）や、微細なドットの版を数十～百回刷り重ねることで立ち現れる「インクの柱」によって多彩な色層表現を追求する版画家・小野耕石（1979-）、身近な草木で染めた絹糸を用いて、自然に寄り添いながら美しい縞模様を生み出す染織家・佐藤常子（1938-）など、抽象画のみならず版画や工芸など多様な作品から線と色の豊かさに迫ります。

作者	作品名	制作年	材質・技法	所蔵
さかた かずお 坂田 一男	コンポジション (メカニック・エレメント)	昭和30 (1955) 年	油彩・カンバス	本館蔵
りゅうせいよう 劉 生容	しょうきん 焼金 No.6	昭和40 (1965) 年	油彩、コラージュ・カンバス	本館蔵
たかはし しゅう 高橋 秀	そう 蒼	平成20 (2008) 年	アクリル、金箔・カンバス	個人蔵
ひがしじまつよし 東島 毅	Untitled	平成11 (1999) 年	ハウスペイント、スプレーペイント、モダリン グレースト・カンバス	本館蔵
こだまともき 児玉 知己	あたたかいかがい 温かい絵画	平成24 (2012) 年	アクリル絵の具、塗料・紙、カンバス	本館蔵
くどうてつみ 工藤 哲巳	げんてい お ぞうしょくせいれんさはんのう 限定プールに於ける増殖性連鎖反応	昭和35 (1960) 年	ラッカー・板	個人蔵
くどうてつみ 工藤 哲巳	みらい きろく プログラムされた未来と記録された	昭和51 (1976) 年	合成樹脂、糸ほか	倉敷市立美術館蔵
おの こうせき 小野 耕石	Hundred Layers of Colors	平成25-26 (2013-2014) 年	スクリーンプリン ト、油性インク・紙	本館蔵
おかもと きんぞう 岡本 欣三	とうじゅうこうみずさし 桃壽光水指	昭和56 (1981) 年	陶土	本館蔵
こやま ふじお 小山 富士夫	せいはいくじおおつぼ 青白磁大壺	昭和44 (1969) 年	磁土	本館蔵
なんば じんさい 難波 仁齋	かききんまつぼ 描蒔醬壺	昭和31 (1956) 年	乾漆・描蒔醬	個人蔵
なんば じんさい 難波 仁齋	かききんましほうぼこ 描蒔醬四寶笥	昭和38 (1963) 年	乾漆・描蒔醬	個人蔵
さとうつねこ 佐藤 常子	つむぎおりきもの きびの・はる 細織着物「吉備野・春」	平成13 (2001) 年	絹	本館蔵

## モノ：カタ

モノクロームやモノトーン…単一的な要素=モノに着目し、銅版画の技法でモノクロの虚構世界を緻密に描き出す内田智也（1947-2009）や、積層することで一つの塊となった板ガラスを削り、研磨して揺らぎのある形を生み出す家住利男（1954-）など、一つの素材がもつ魅力から巧みに生み出された多彩な表現をご紹介します。

そして「1」を意味する“モノ”に対し、複数性をもつ「型」を用いた表現として、版画技法を三次元へ応用し、物質を正確に複製することで物質自体のオリジナリティとその存在について問いかける大西伸明（1972-）。さらに、歌舞伎などにおける型と同様に、作家が追求したスタイル=“型”から、綿を雁皮紙で包みふくよかなオブジェ作品を展開した小田宏子（1940-2015）など、岡山ゆかりの作家による独自の世界観にご注目ください。

作者	作品名	制作年	材質・技法	所蔵
いえずみとしお 家住 利男	M.070301	平成19 (2007) 年	熱線反射板ガラス・接着・研磨	本館蔵

うちだともや 内田 智也	Combination Nest #2001	平成12 (2000) 年	エッチング、アクアチン ト・紙	本館蔵
アオキ スミエ	1983	昭和53 (1983) 年	油彩、鉛筆・カンバス	本館蔵
かわぐち たつお 河口 龍夫	ぶぶん とうたい 10の部分よりなる筒体	昭和49 (1974) 年	鉛	本館蔵
かわぐち たつお 河口 龍夫	ぶぶん ろくめんたい 22の部分よりなる六面体	昭和49 (1974) 年	鉛	本館蔵
イサム・ノグチ	せっこうがた 石膏型	昭和27 (1952) 年	石膏	個人蔵
イサム・ノグチ	さくひん びぜんやき 作品 (備前焼)	昭和27 (1952) 年以降	備前土	個人蔵
おだひろこ 小田 宏子	seed of...	平成20 (2008) 年	雁皮紙・綿	本館蔵
ひらくし でんちゅう 平櫛 田中	ししおう ろくだいまくごかがみじし 獅子王 (六代菊五鏡獅子)	昭和21 (1946) 年	木彫・彩色	個人蔵
ひらくし でんちゅう 平櫛 田中	かがみじし 鏡獅子	昭和33 (1958) 年	木彫・彩色	本館蔵
てらだたけひろ 寺田 武弘	へんい 変位 (1)	昭和44 (1969) 年	木	本館蔵
まつい えりな 松井 えり菜	あくまでき 悪魔的なかつこよさで	平成23 (2011) 年	アクリル絵具・木製パネ ル	個人蔵
まつい えりな 松井 えり菜	しんあいなる たかはしまことさまー! 親愛なる高橋真琴summer!	平成22 (2010) 年	油彩・カンヴァス	個人蔵
おおにし のぶあき 大西 伸明	mini kupa	平成20 (2008) 年	樹脂に塗装	本館蔵

## おとなり美術館

作者	作品	制作年	材質・技法	所蔵
こやまふじお 小山 富士夫	せいはいくじたじこ 青白磁多耳壺	昭和時代 (20世紀)	磁土	本館蔵
不詳	しちじつきびん 七耳付瓶	ローマ時代 (300-350年頃)	ガラス	オリエント美術館 蔵